

阿賀津川中学校だより

白 嶺 青 龍

阿賀町立阿賀津川中学校
第14号
令和2年3月25日発行
TEL 92-2117
www.niigata-inet.or.jp/tsugawa-j

教育目標

知性を磨き、共に高め合う生徒

卒業証書授与式 式辞

2月4日の立春まで雪が降らないという、例年にないこの冬も、もうすぐ終わりを告げ、やわらかな春の気配を感じる今日の佳き日に、阿賀町長神田一秋様、県議会議員澤野修様、町議会議員齋藤秀雄様はじめ、多数の御来賓の皆様ならびに保護者の皆様の御臨席を賜り、阿賀町立阿賀津川中学校第12回卒業証書授与式を挙行できますことを、会場にいらしゃる全ての皆さんと共に喜びたいと思います。御来賓の皆様、保護者の皆様、本日は御多用の中を有難うございます。

さて、卒業証書を手にした54名の卒業生の皆さん、御卒業おめでとうでございます。遡れば3年前、皆さんと私は共に当校に入学しました。私は入学当初から、皆さんの学年を、エネルギーのある魅力的な学年であると感じていました。当校で過ごした3年間で様々な経験をし、前に進んだり後に下がったりしながら確実に成長してきました。私が感じていた、「魅力的な学年」は間違いではなかったなあと大変嬉しく思います。全体的に男子は元気でおとこ気があったり、物静かで冷静に全体を観て行動したり、女子は明るく大らかな気持ちで男子を見守っている、そんな学年カラーに観えました。

平成から令和へと元号が変わった記念すべき年度の修学旅行で、コミュニケーション能力と郷土愛の育成をねらいとして、当校初の試みとなる「阿賀町情報発信活動」を大阪・新世界「通天閣」と「じゃんじゃん横町」で行いました。後輩が商品開発した「エゴマドレッシング」を販売したり、卒業生の皆さんが手作りした「阿賀町パンフレット」を道行く人に配布したりしました。活動に携わってくださった全ての方の御協力と、何と言っても卒業生の皆さんの努力で、「エゴマドレッシング」と「エゴマ煎餅」を完売しました。

当校の最上級学年として、そして当校の顔として様々な場面での皆さんの成長を嬉しく思うとともに、当校を引っ張ってきてくれたことに心より感謝いたします。殊更、私の記憶に残っているのは阿賀青龍祭です。日本のあちらこちらで熱中症を引き起こした猛暑の中、全校生徒の健康面の安全を最優先に考えての急なプログラム変更を真摯に受け止めると共に、最上級学年としての、阿賀青龍祭への想いを、正々堂々と職員に伝えた皆さんは大変立派でした。女子はいつも朗らかで、男子は行動力もおとこ気もありますから、阿賀青龍祭の時のように、これから先も様々な事に配慮し、熟慮に熟慮を重ね、筋道の通った行動をすることを大いに期待しています。急ぐ必要はありません。一步一步確実に「人」として更に高いステージへと上ってください。

卒業生の皆さんへのはなむけの言葉として「人生を決めるような大きなチャンスは、誰にでも平等に三回巡ってくる」を贈ります。毎年この話はするのですが、今日は、卒業生の皆さんに聴いてほしいのです。

～ 中略 ～

【夢（人生を決めるような大きなチャンスを掴み）を実現するために】

- 1 『夢をもつ』
- 2 『どんなに苦しい状況に置かれても夢はすてない』
- 3 『チャンスを掴む力を蓄えておく』

阿賀町の宝物は四季折々の自然と人情です。近い将来、阿賀町に留まるもよし、或いは1度は故郷を出て、阿賀町を遠くからながめ、阿賀町の良さを再発見し、帰ってくることもいいでしょう。阿賀町を離れて生活をすると、人様から必ずと言っていいほど掛けられる言葉があります。それは、「あなたはどちらのご出身ですか？」です。そんなとき、胸を張って元気に答えてください。「私は新潟県の阿賀町の出身です」と。

最後になりましたが、保護者の皆様、お子様の御卒業、誠におめでとうございます。私たち職員は、様々な面で皆様から助けいただきました。心から深く感謝を申し上げます。有難うございました。54名の卒業生の前途を祝し、より一層の御多幸とますますの御活躍を祈念し、式辞といたします。

令和2年3月3日

阿賀町立阿賀津川中学校長 長谷川 秀夫

【当校教育活動への御理解と御協力に感謝いたします】

本年度は、平成から令和へと年号が変わり、日本各地で起った夏の熱中症。そして11月に各地に甚大な被害をもたらした水害。当阿賀町も例外ではありませんでした。そして、今回の新型コロナウイルス感染防止への対応。様々な場面で、保護者の皆様より、当校教育活動への力強い御理解と御協力をいただきながら激動の1年間を乗り切ることが出来ました。誠に有難うございました。

【令和2年度もよろしくお願ひいたします】

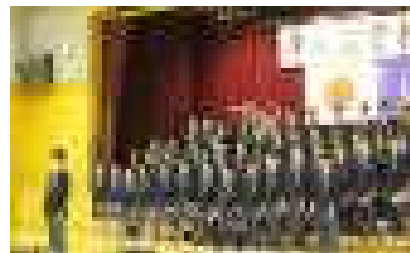
新型コロナウイルスの収束は未だ見えません。同時に、地球を取り巻く環境が激変しつつあり、我々の生活も様々な場面で変化することを強いられているような気がしてなりません。このような不安定な環境の今だからこそ、学校と保護者・地域が緊密に連携していかなければならないと強く感じています。今後とも、阿賀津川中学校の教育活動への一層の御理解と御協力を、何卒よろしくお願ひいたします。

第12回卒業証書授与式が行われました

3月3日(火)、厳かな雰囲気の中、「阿賀津川中学校第12回卒業証書授与式」が行われました。神田町長様をはじめ、たくさんのご来賓の皆様、保護者の皆様、ご列席、大変ありがとうございました。

そして全校生徒で歌う最後の校歌、合唱「変わらないもの」では、全校の歌声が一つになり、3年間の思い出を振り返るとともに、卒業生の旅立ちを、応援し祝福する気持ちが表れていました。また、3年生の卒業記念合唱「旅立ちの日に」が歌われる中、感動が会場いっぱいに広がりました。

会場内のすべての人たちに見守られる中、54名の卒業生は無事に巣立っていきました。彼らを待つ未来に幸多からんことを祈ります。



送 辞

例年のない暖冬となった今年の冬、ここ津川の地にも間もなく春が訪れます。この佳き日、阿賀津川中学校を卒業される五十四名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

～中略～

皆さんと過ごした日々は、私たちにとって、忘れられない大切な宝物です。当たり前と思って過ごしていた皆さんとの生活が、明日からなくなってしまうと思うと、とても寂しい気持ちになります。

しかし、皆さんが築かれた伝統をしっかりと受けつぎ、新たな阿賀津川中学校を築いて参ります。

四月からは、それぞれの新しい道を進まれる皆さん。様々な困難があっても、皆さんなら必ず乗り越えていけると信じています。

最後になりましたが、今日、阿賀津川中学校を巣立っていかれる卒業生の皆さんが、それぞれの新しい場所でご活躍されることを、在校生一同心よりお祈りし、贈る言葉といたします。

今まで本当にありがとうございました。

在校生代表 田部 遥希

答 辞

麒麟山から吹き下ろす寒風も、今年は暖冬の冬となり柔らかなもの感じられます。春はもうすぐそこまで来ています。今、数え切れないほどの思い出が頭の中を駆け巡ります。あっという間に月日が流れ、そして、今日、卒業の日を迎えました。

私たち五十四名は三年前中学校生活への期待と不安を抱きながら入学しました。一年生の野外活動では、まだ、出会って間もない仲間とも、野外活動やレクリエーションを通して仲良くなることができました。ともに中学校生活を過ごしていく絆を作ることができました。

二年生の会津巡検では、班ごとに計画を立てて、会津の町を巡りました。班の仲間と意見を出し合い、自分たちで行動することで協力することと、集団行動の大切さを学ぶことができました。また、後輩ができて、よい手本になれるように努力しました。

そして迎えた中学校生活の最後の一年。まずは、とても楽しみにしていた修学旅行大阪、京都、そして、ユニバーサル・スタジオジャパンなどを巡る三日間の旅。大阪では商人体験を通して、阿賀町のよさを発信しました。京都では、班に分かれて、有名な神社や観光地を巡り、京都の文化や歴史を学ぶことができました。ユニバーサルでは、たくさんのアトラクションに乗ったり、買い物をしたりして、おもいきり楽しみました。修学旅行を通して、改めて、ふるさと阿賀町の良さを再発見することができました。一生忘れることのできない思い出です。

部活動でもリーダーとなりました。なかなか思うようにいかず、辛いこともたくさんありました。そんな時は、目標を確認して、ひたむきに努力しました。思うような結果が出たとはいえません。でも、一生懸命取り組んだその経験は、これからの私たちの力になると確信しています。阿賀青龍祭では、これまでの伝統種目に加えて、様々な企画を考え、運営しました。両連合とも全力でぶつかり合い、たくさんの感動が生まれました。「輝笑天結」というスローガンのもと、思い出に残る阿賀青龍祭を造り上げることができました。白嶺祭。まず、劇団AGAを結成して、劇を上演しました。三年生が一つになり、試行錯誤をしながら、練習を重ねました。本番は観てくださった方の心に残る劇を造り上げることができたと思います。合唱も、毎日練習を重ね、すばらしい合唱を作り上げることができたと思います。生徒会では今年度「Step up～手と手を取り合い伝統をつなごう～」のスローガンのもと全校が協力し合えることを重点に、活動を行ってきました。いろいろな行事や日常活動なども含め、全校が協力し合えたと感じています。

この三年間の日々は、全てかけがえのない宝物です。日々の授業、ふざけあって遊んだこと、たくさんの行事。当たり前だった日々は、もう戻ってくることはありません。しかし、この中学校で体験したこと、学んだことは、一人一人の心の中で、一生輝き続けると思います。そしてこれからも、最高の仲間と過ごした最高の三年間は、これからの一人一人の人生において、たくさんの勇気を与えてくれることでしょう。

在校生のみなさん、これからの阿賀津川中学校の新たな伝統を、皆さんの手で創り上げていってください。新しいことを始める時は不安もあるでしょう。そんな時こそ、全校が一つになって、お互いに協力して活動してください。そして、良き伝統を繋ぎ、新しいページを加え、更にすばらしい阿賀津川中学校を作っていってください。更に発展していく母校を、私たちは応援しています。

先生方、今まで優しく、そして時には厳しく指導をしてくださり、ありがとうございました。先生方からの温かい励ましが、いつも私たちの背中を強く押してくれました。教えていただいたこと、たくさんのを忘れずに、これからも、より一層成長していきます。

そして、今まで私たちを支えてくれたお父さん、お母さん。本当にありがとうございました。時には素直になれない私たち。でも、感謝の気持ちでいっぱいです。これから、自分の決めた道を進みながら、一步ずつ大人になっていきます。これからも私たちを見守ってください。

地域の皆様、たくさんのご支援、本当にありがとうございました。皆様からの期待を心に留め、自らの手で夢をつかむことができるよう精一杯努力していきます。

五十三名の仲間へ。みんなと過ごした毎日は、本当に楽しかったです。どんなことも、明るく乗り越えることができたのは、みんなのおかげです。これからはそれぞれが選んだ道を進んでいきます。悩んだとき、つまずいた時は、この三年間の思い出を胸に、お互い頑張っていきましょう。今まで私たちを支えてくださった方々への感謝を胸に、私たち五十四名は、阿賀津川中学校を巣立ち、それぞれが決めた道を力強く歩み続けます。どうか応援してください。最後になりましたが、ご臨席くださいました皆様に心から感謝申し上げ、阿賀津川中学校のますますの発展をお祈りし、答辞といたします。